

---

# 2024年3月期 第3四半期決算説明会

---

2024年1月31日  
株式会社エンプラス

# 目次

## 決算概況

- 2024年3月期 第3四半期 決算説明
- 2024年3月期 連結業績見通し

## 各事業の動向と事業戦略

### (ご参考) 企業価値向上の考え方

～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応～

- 現状分析と企業価値向上に向けた取り組みの目標値
- 企業価値向上の考え方
- キャッシュアロケーション方針

# 決算概況

---

## 2024年3月期 第3四半期損益実績（連結）

（単位：億円）

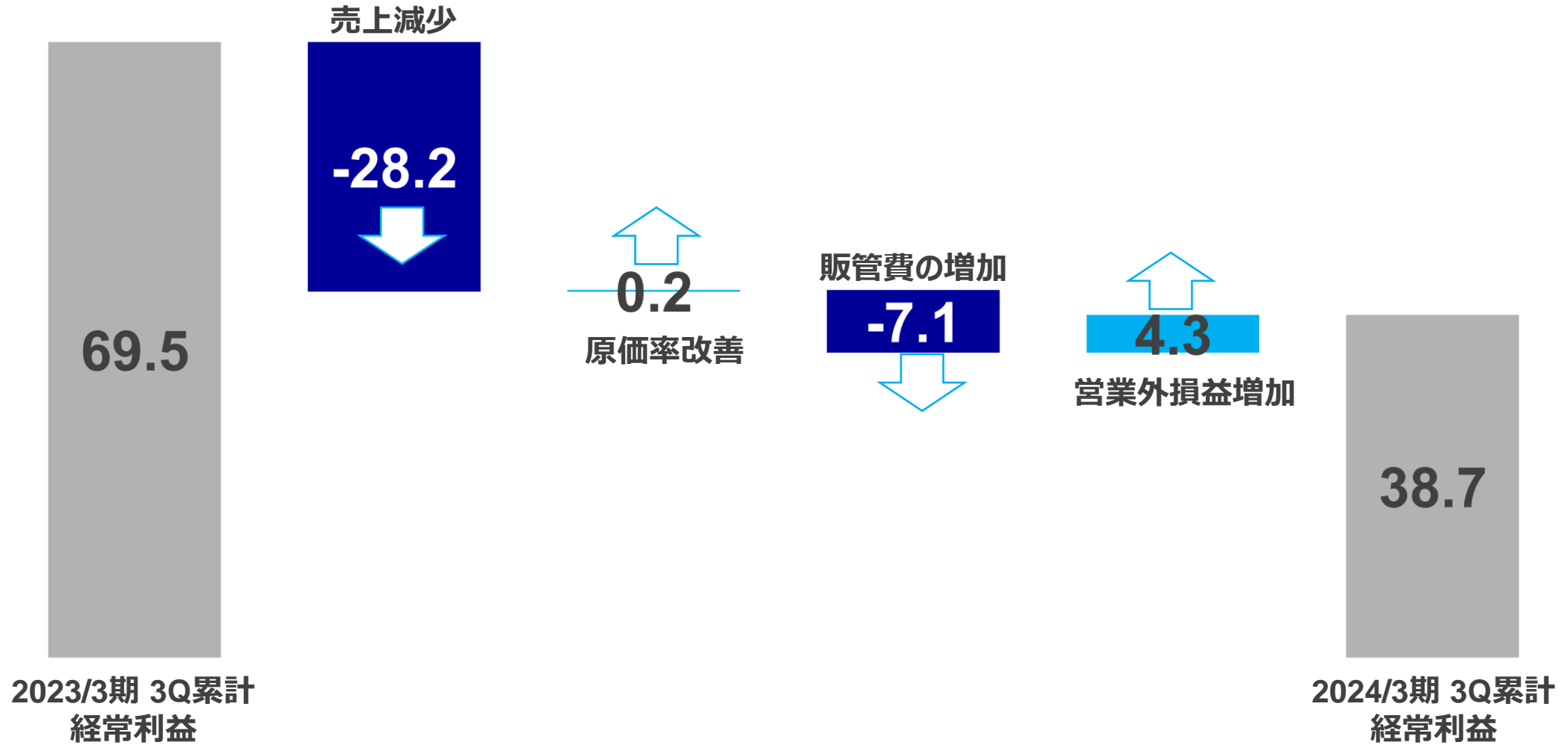
	2023/3期	2024/3期	増減	(参考) 通期計画
	3Q累計実績	3Q累計実績		
売上高	322.7	279.5	-13.4%	395.0
売上原価率	51.4%	53.9%	+2.5pt	53.8%
営業利益	70.6	35.5	-49.7%	54.0
経常利益	69.5	38.7	-44.3%	60.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	36.3	22.8	-37.2%	42.0
1株当り四半期純利益	412.20円	258.78円	-153.42円	475.91円
期中平均レート（US\$）	135.41円	142.76円	+7.35円	(通期計画レート※) 140.65円

※通期計画レートは、下期計画レート140.00円と上期期中平均レート141.31円の平均です。

為替感応度（US\$）：売上高 約2億円/年、営業利益 約1.5億円/年

# 経常利益の増減分析 <前3Q累計比>

(単位：億円)



# 2024年3月期 第3四半期セグメント別実績 (連結)

(単位：億円)

		2023/3期 3Q累計実績	2024/3期 3Q累計実績	増減
Semiconductor	売上高	180.9	121.1	-33.1%
	売上原価率	47.2%	53.6%	+6.4pt
	営業利益	50.7	13.4	-73.6%
Life Science	売上高	25.2	18.5	-26.6%
	売上原価率	53.6%	60.5%	+6.9pt
	営業利益	-2.5	-8.9	-
Digital Communication	売上高	28.1	43.9	+56.2%
	売上原価率	34.7%	22.6%	-12.1pt
	営業利益	11.8	24.1	+105.0%
Energy Saving Solution	売上高	88.3	95.9	+8.6%
	売上原価率	64.9%	67.5%	+2.6pt
	営業利益	10.6	6.8	-35.7%

# 連結四半期損益実績推移

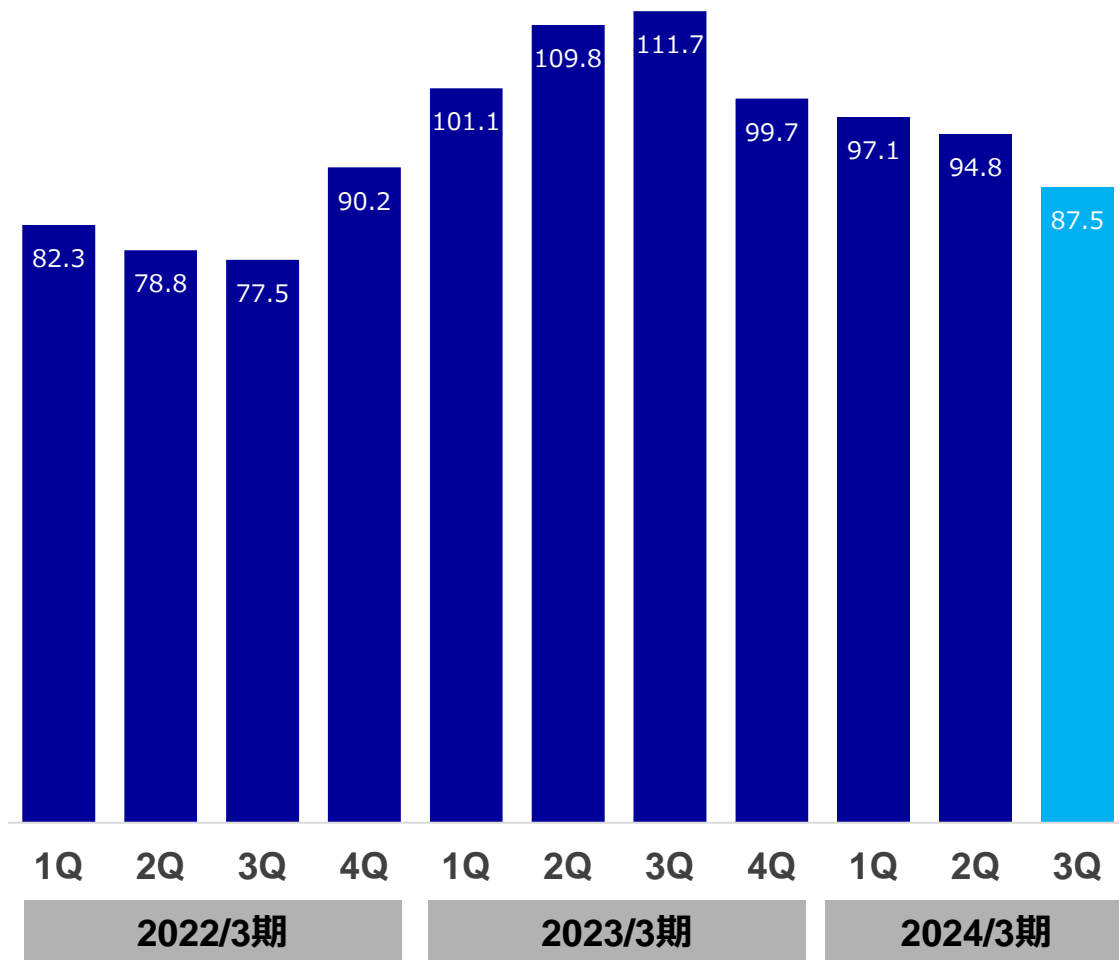
(単位：億円)

	2023/3期		2024/3期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	111.7	99.7	97.1	94.8	87.5
売上原価率	49.4%	52.1%	53.2%	53.9%	54.8%
営業利益	27.0	17.5	14.1	12.0	9.3
経常利益	24.4	18.3	16.8	14.1	7.7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	18.7	9.8	7.3	10.6	4.8
1株当り四半期純利益	212.33円	111.74円	83.42円	120.39円	54.98円

# 連結四半期損益実績推移

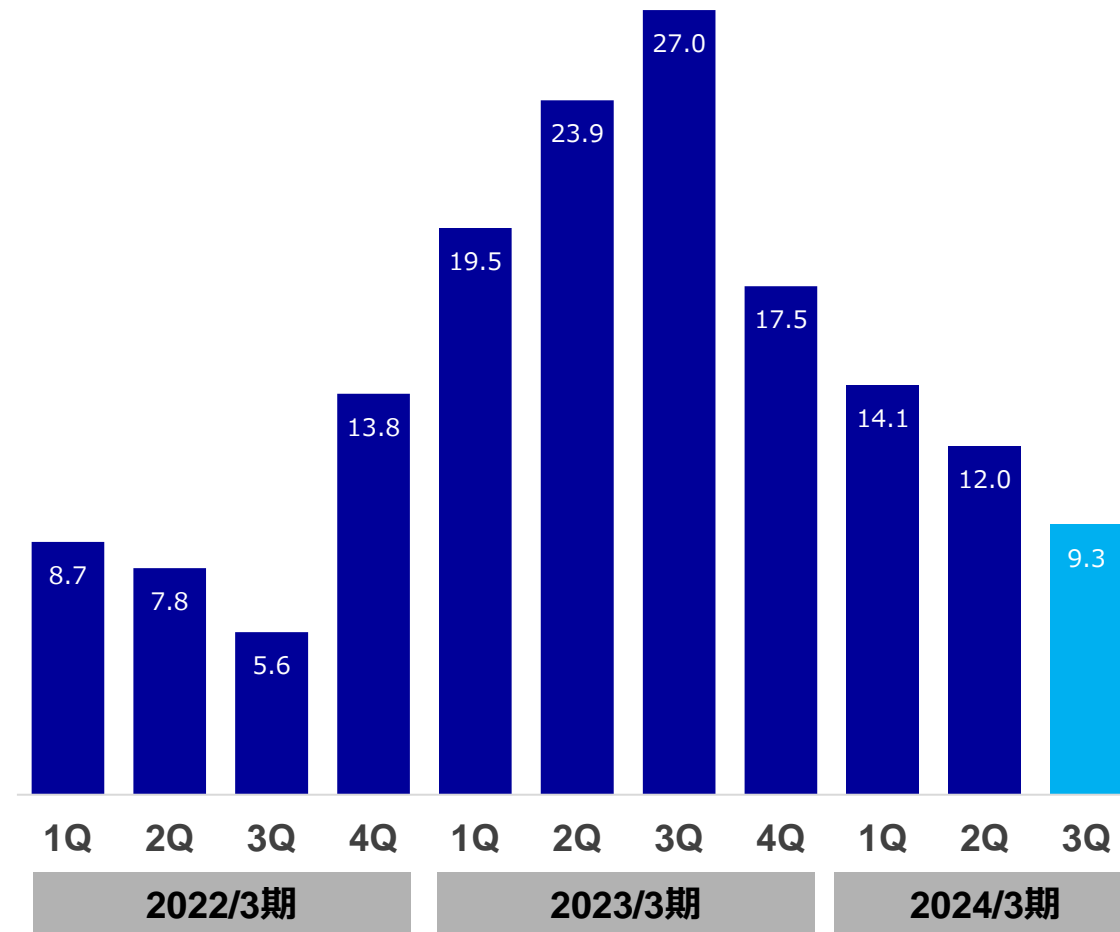
<売上高の推移>

(単位：億円)



<営業損益の推移>

(単位：億円)





## セグメント別四半期損益実績推移（連結）

（単位：億円）

		2023/3期		2024/3期		
		3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
Semiconductor	売上高	64.4	53.3	46.7	40.1	34.2
	売上原価率	45.5%	45.7%	50.3%	54.8%	56.5%
	営業利益	19.4	14.3	8.5	3.9	0.9
Life Science	売上高	7.8	5.6	6.0	6.5	5.9
	売上原価率	54.0%	67.2%	63.9%	62.0%	55.4%
	営業利益	-0.9	-3.8	-3.5	-3.2	-2.1
Digital Communication	売上高	9.6	9.6	14.4	15.2	14.2
	売上原価率	31.1%	28.4%	23.5%	21.8%	22.6%
	営業利益	4.3	4.0	7.8	8.6	7.7
Energy Saving Solution	売上高	29.7	31.0	29.8	32.8	33.1
	売上原価率	62.7%	67.8%	70.0%	66.1%	66.6%
	営業利益	4.1	2.8	1.3	2.7	2.8

# 決算総括

## 2024年3月期 第3四半期 損益実績

- Digital Communication事業の光通信関連は業績拡大継続も、Semiconductor事業が低調に推移し、前年同期比で減収減益（売上高-13.4%、営業利益-49.7%、親会社株主に帰属する四半期純利益-37.2%）

## Semiconductor事業

- サーバー用途とモバイル用途の市場調整が継続し減収
- サーバー用途は2Qより大幅に落ち込んだ一方、その他の用途は概ね堅調に推移

## Life Science事業

- 顧客の生産調整等により減収

## Digital Communication事業

増収増益

- 光通信関連は、AI用途等のハイエンド領域が伸張し、増収

## Energy Saving Solution事業

- 自動車の生産回復、自動車の電装化に対応した低騒音・高効率ギヤソリューションビジネスの拡大により増収
- セグメント売上構成の変化（27.4% → 34.3%）に伴い、コーポレート部門の費用配賦割当が増加し、減益

# 決算総括

## ➤ 販売管理費

(単位：億円)

2023/3期 3Q累計	2024/3期 3Q累計	差異
86.0	93.2	+7.2

- 労務費 +3.0億円
- 旅費交通費 +1.4億円
- 研究開発費 +0.7億円

## ➤ 営業外損益

(単位：億円)

2023/3期 3Q累計	2024/3期 3Q累計	差異
-1.1	3.1	+4.2

- 受取利息 2.1億円 (2023/3期 3Q累計 0.4億円)
- 為替差益 1.0億円 (2023/3期 3Q累計 為替差益 1.4億円)

## ➤ 特別損益

(単位：億円)

2023/3期 3Q累計	2024/3期 3Q累計	差異
-15.1	-3.9	+11.2

- 2024/3期 3Q累計実績
- 貸倒引当金繰入額 1.6億円
  - 災害損失引当金繰入額 1.0億円
  - 事業再構築費用 1.0億円

# 2024年3月期 連結業績見通し

---

## 2024年3月期 連結業績見通し

(単位：億円)

	2024/3期 3Q累計実績	2024/3期 通期
売上高	279.5	395.0
売上原価率	53.9%	53.8%
営業利益	35.5	54.0
経常利益	38.7	60.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	22.8	42.0
1株当り当期純利益	258.78円	475.91円
配当金	30.00円	60.00円

※2023年10月27日の見通しから変更していません。

## 2024年3月期 セグメント別売上見通し

(単位：億円)

	2024/3期	2024/3期
	3Q累計実績	通期
Semiconductor	121.1	175.0
Life Science	18.5	28.0
Digital Communication	43.9	62.0
Energy Saving Solution	95.9	130.0

※2023年10月27日の見通しから変更していません。

## 2024年3月期 設備投資・減価償却・研究開発費（ご参考）

（単位：億円）

	2023/3期	2024/3期	2024/3期
	通期実績	3Q累計実績	通期
設備投資	23.7	32.7	40.0
減価償却	22.4	16.7	24.0
研究開発	12.8	10.0	14.0

※2023年10月27日の見通しから変更していません。

# 各事業の動向と事業戦略

---



# Semiconductor事業

## 環境

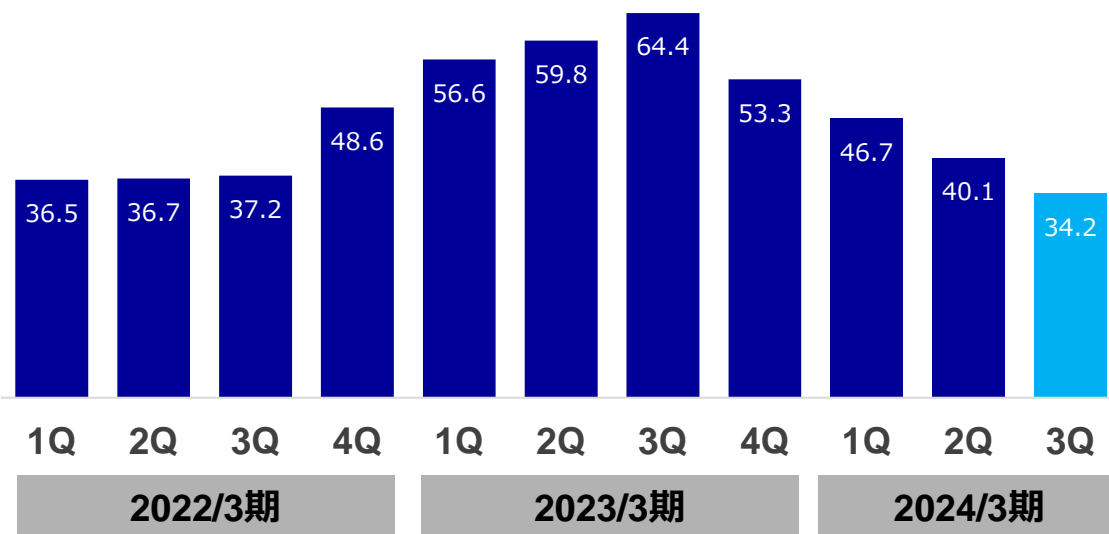
- サーバー用途、モバイル用途を中心に市場の落ち込みが継続
- 半導体需要の調整は当初想定より長引いているものの、当社が注力しているサーバーや自動車用途の需要は中期的には増加

## 事業戦略

- 将来の成長に備えた生産能力増強や技術開発への投資継続

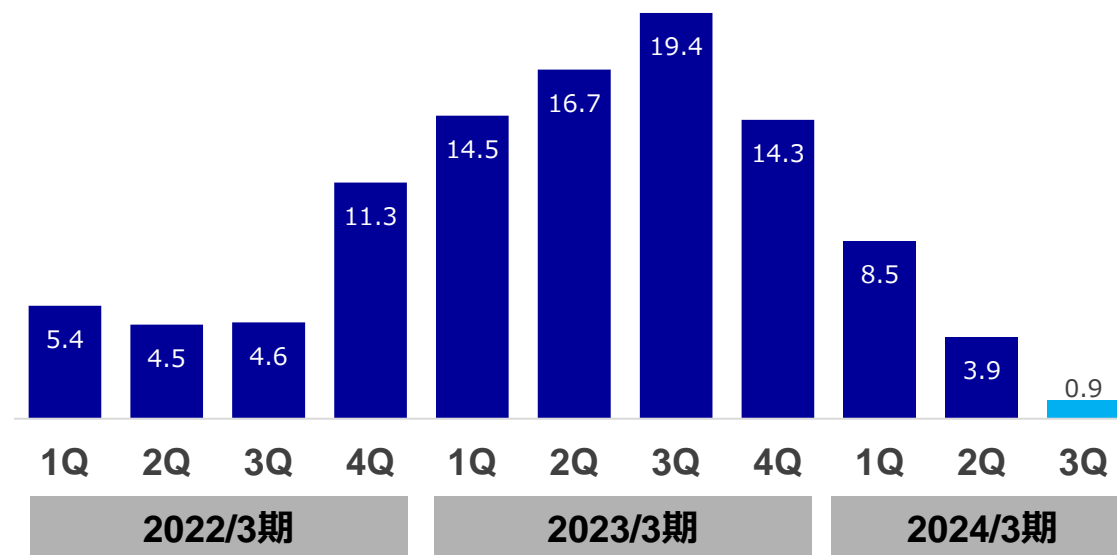
### <売上高の推移>

(単位：億円)



### <営業損益の推移>

(単位：億円)



# Life Science事業

環境

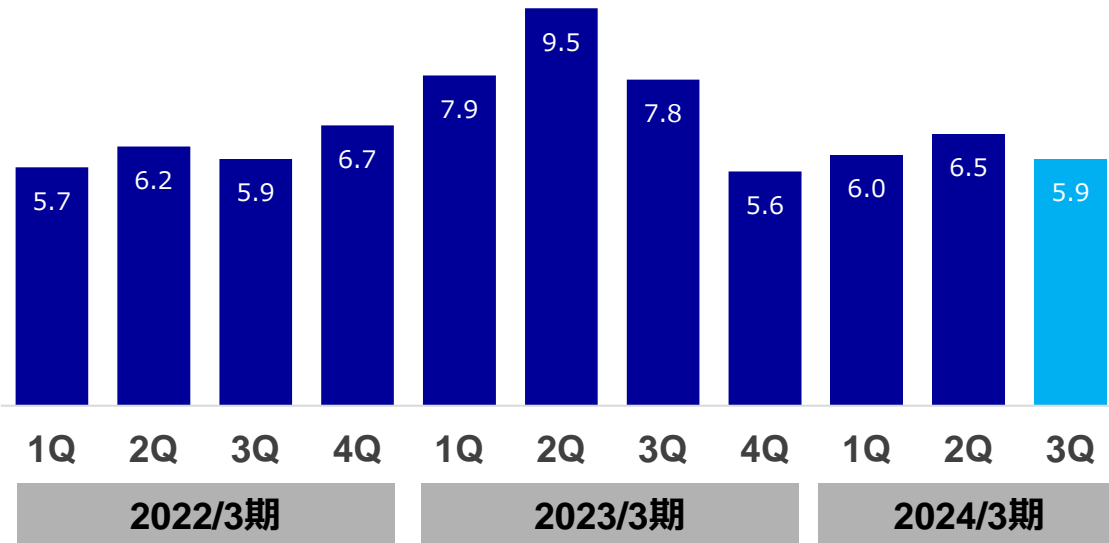
- 人々の健康意識の高まりによる遺伝子検査市場の成長期待
- 遺伝子検査用製品は、顧客の在庫調整が長引く見通し

事業戦略

- 抜本的なコスト構造の見直しによる収益改善を進め、来期黒字化を目指す

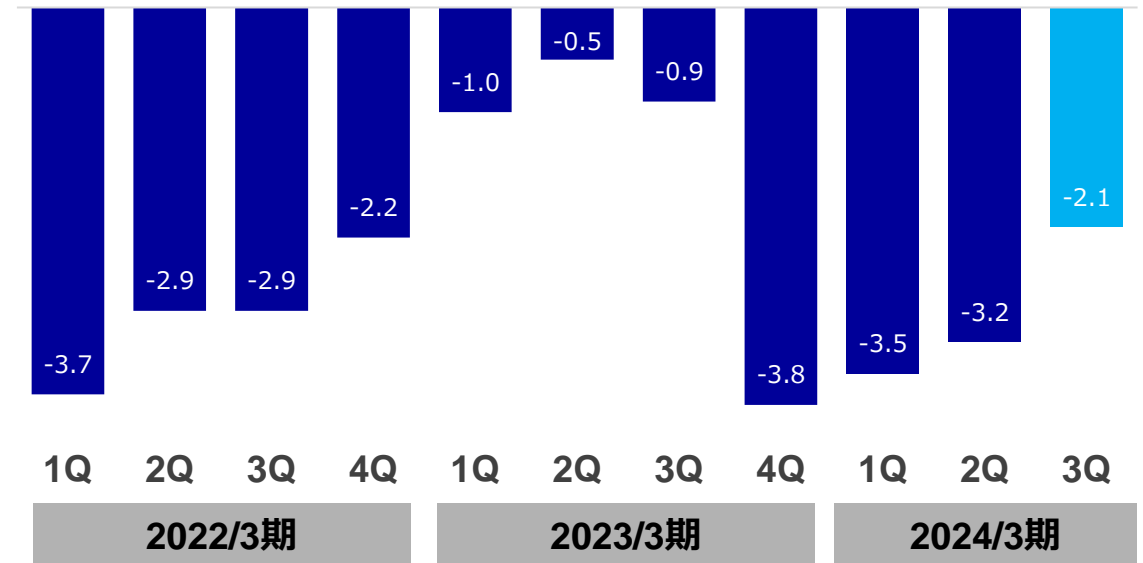
<売上高の推移>

(単位：億円)



<営業損益の推移>

(単位：億円)

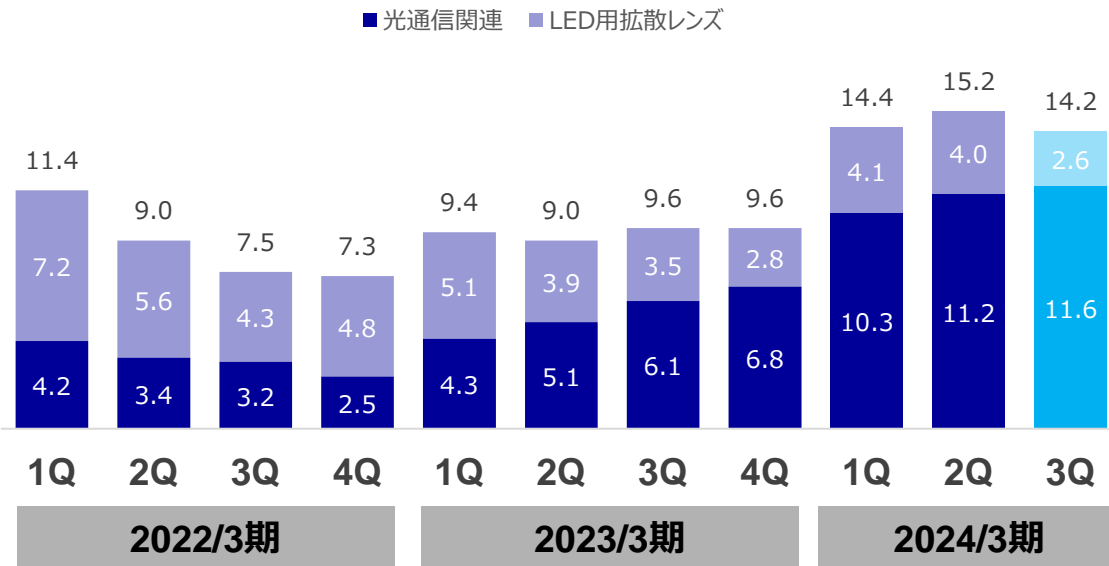


# Digital Communication事業

環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 光通信関連は、生成AI技術の進展、社会実装の始まりによる生成AI市場が拡大する一方、競争環境が激しくなる想定</li> <li>■ LED用拡散レンズは、液晶テレビ市場の需要減少を受け低迷</li> </ul>
事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 光通信関連は、主力製品のシェア維持や横展開による販売促進、次世代製品の開発・上市を進め、事業成長を目指す</li> <li>■ LED用拡散レンズは、既存領域の収益性確保と、新ソリューションの開発</li> </ul>

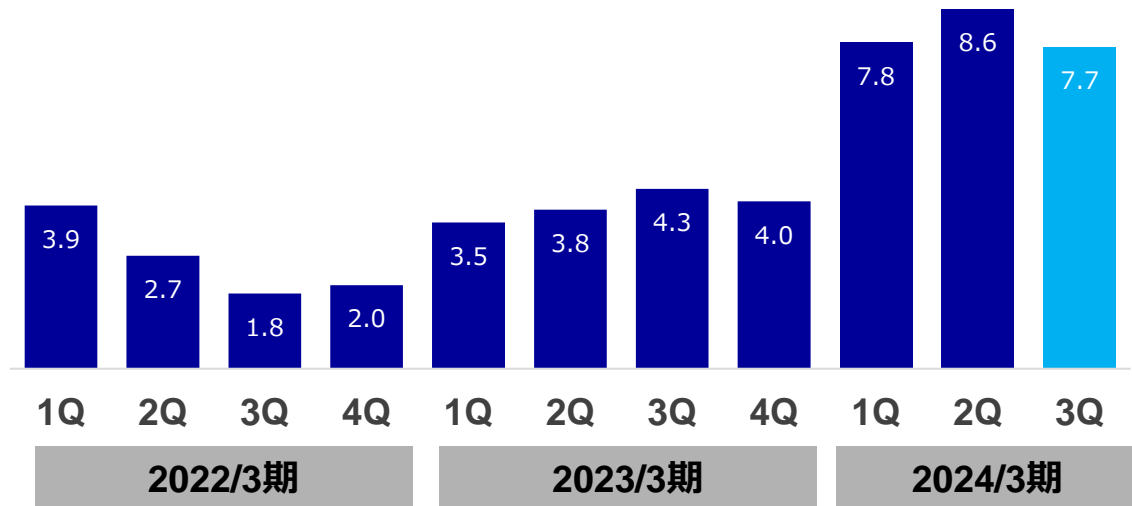
<売上高の推移>

(単位：億円)



<営業損益の推移>

(単位：億円)



# Energy Saving Solution事業

## 環境

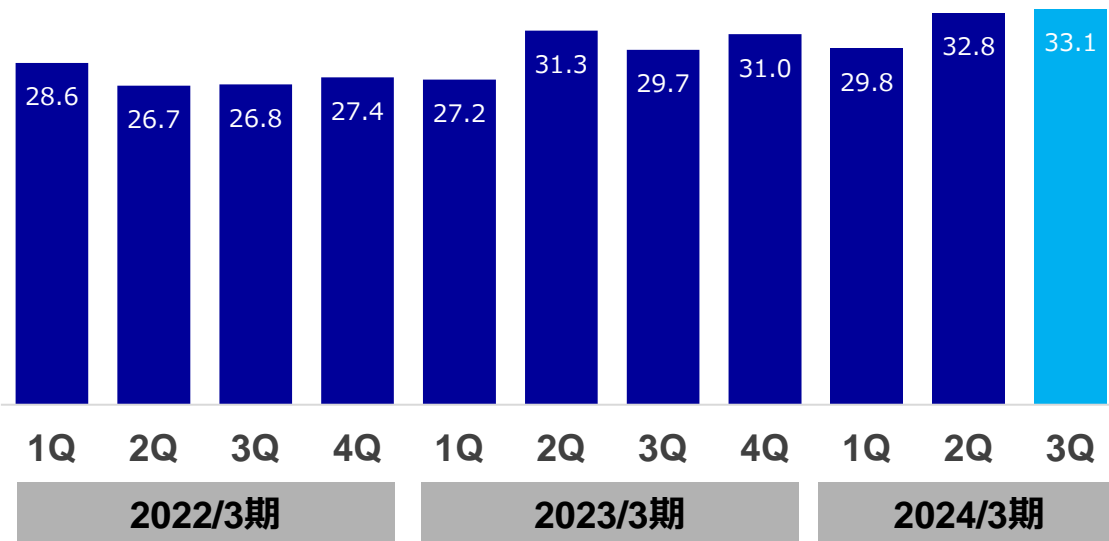
- 自動車市場は経済活動の再開や環境車への流れが加速し、需要は拡大傾向
- 自動車関連は世界的な半導体不足や部品の調達難が解消し、生産回復

## 事業戦略

- 欧米を中心としたEV需要の取り込みによるシェア拡大、既存の日系顧客向けの販売促進
- 低騒音、高効率ギヤソリューションビジネスでの成長

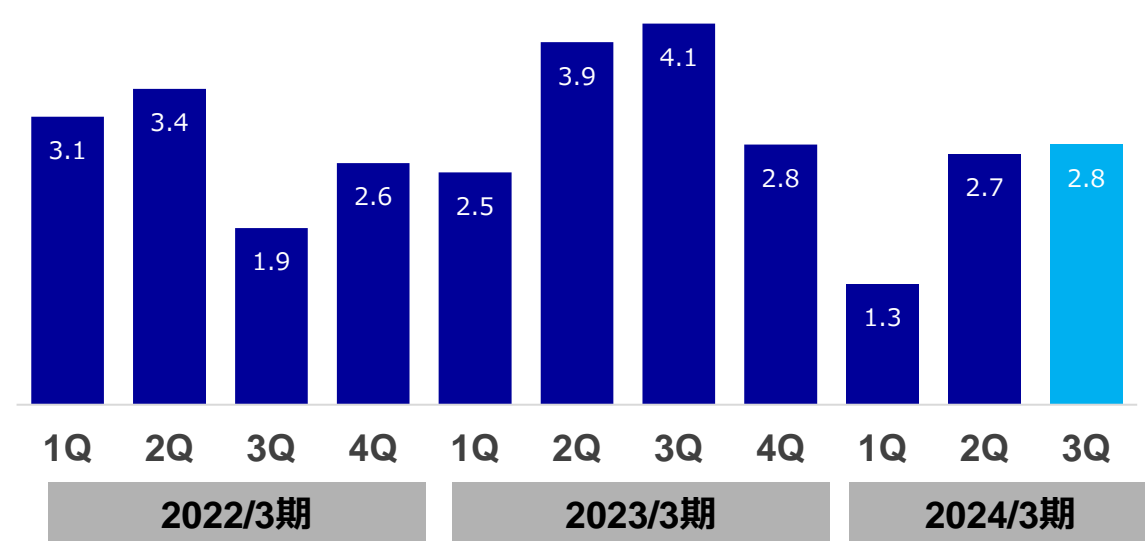
### <売上高の推移>

(単位：億円)



### <営業損益の推移>

(単位：億円)



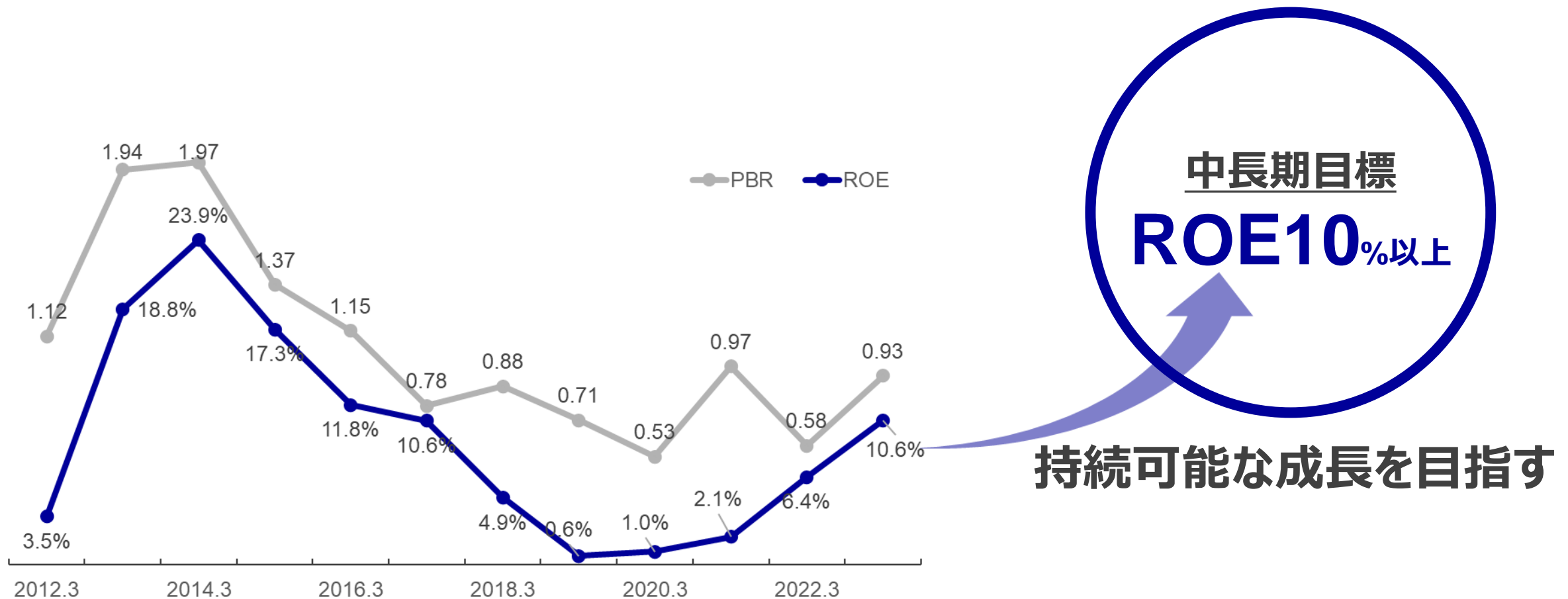
# **（ご参考） 企業価値向上の考え方**

**～資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応～**

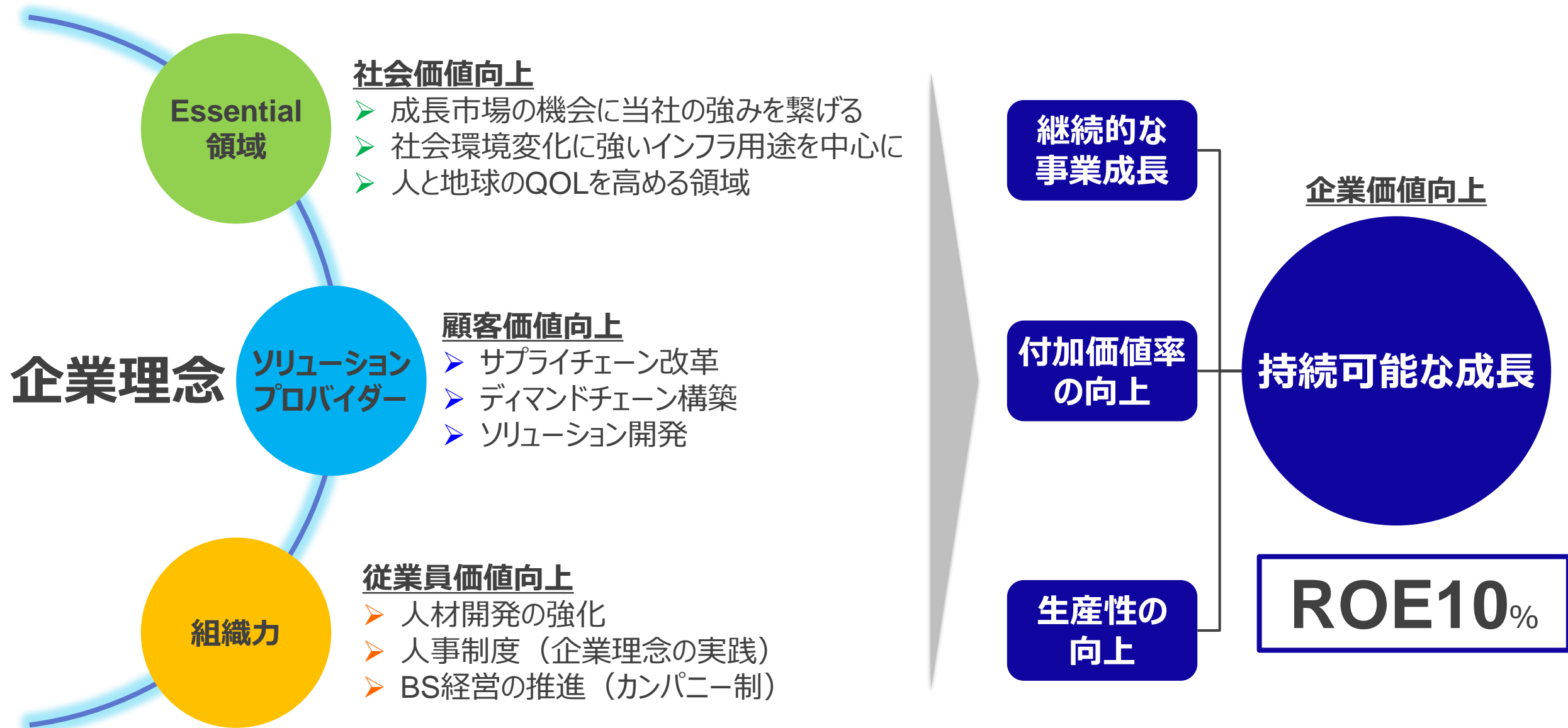
---

# 現状分析と企業価値向上に向けた取り組みの目標値

- 過去のROEとPBRの推移から、当社のROEとPBRは相関が高いと分析
- 株主資本コストは7%～9%レンジを想定



# 企業価値向上の考え方



# キャッシュアロケーション方針

## 新規事業/イノベーション創出への投資、成長分野への投資を優先

投資項目	回収期間	想定する効果	今後3年間の投資予定額
<b>新規事業/イノベーション創出 環境対応への投資</b> ・イノベーションセンター（さいたま新都心） ・環境負荷低減	長期	未来に向けた 企業価値向上	100~150億円
<b>成長分野への投資</b> ・Essential領域 ・システム投資	中期	収益力の向上	70~120億円
<b>その他の設備投資</b> ・金型投資 ・老朽化設備の入れ替え	短期	生産性向上	60~70億円



# 株式会社エンプラス 決算説明会

<https://www.enplas.co.jp/>

(東証プライム 6961)

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。